

吉澤正著「クォリティマネジメント用語辞典」日本規格協会、2004年5月20日刊を読む

クォリティマネジメントとは

1. 1980年代は、第二次世界大戦後の我が国の産業復興と経済発展に大きく貢献したTQCがある意味で頂点に達したときであり、統計的品質管理(SQC)から全社的品質管理ないし総合的品質管理へと我が国で独自に発達したのがTQCの特徴である。
2. (1)しかし、その後の国際社会のボーダレス化、グローバル化、情報化などの進展により、1987年には国際標準化機構(ISO)においてISO 9000「品質システムシリーズ」が発行されて、それに基づく品質システム審査登録制度が英国を起点に急速に広まった。
(2)そのような制度を含む適合性評価制度とともに、国際標準化も多くの分野で進んだ。
(3)一方で、TQCは、デミング賞の制度とともに欧米に移転してTQM(Total Quality Management)と言われるようになり、米国では政府主導のボルドリッジ国家品質プログラムに取り込まれ、更に欧州ではBFQM(欧州品質マネジメント財団)による品質賞及び自己評価システムへと発展した。
3. (1)そのように品質システムやTQMが国際化する潮流の中で、我が国では、いわゆるバブル経済の崩壊が生じ、その後の社会・経済制度の構造改革が遅れたことの影響もあって、TQCのグローバル化への変革もやや遅れた感があった。
(2)しかし、1993年に品質システム審査登録制度が整備され、1996年には環境マネジメントシステム審査登録制度が始まり、現在では、新しい品質マネジメントシステム(ISO 9001:2000改訂)の対応では世界をリードし、品質マネジメントシステムの登録件数は3万件を超えている。
(3)また、ISO 14001に基づく環境マネジメントシステム審査登録件数は、1万4000件を超え、世界の20%あまりの件数を占め、断然世界をリードしている。
(4)これらの両制度の中核として審査にあたる審査員は、主任審査員、審査員、審査員補を含めて2万人に及んでいる。
4. (1)また、TQCについては、1990年代に入って自動車産業を中心に日本国内でもTQMと称されるようになり、日本科学技術連盟においても1997年はじめに「TQM宣言」、1999年末には「箱根宣言」を発して、21世紀に向けたTQMの自己改革を行い、これまでの製造業中心のTQMから、医療や行政を含むサービス産業への普及をも目指している。
(2)さらに、日本規格協会では品質マネジメントに関する標準化検討委員会を設置して、日本独自に発達した「方針管理」、「継続的改善」、「品質機能展開」を3本の日本工業規格とすること、並びにISO 9004「品質マネジメントシステムの指針」の次世代版を検討してJISの標準情報とすることに貢献した。

[コメント]

「クォリティマネジメント」つまり品質管理に関する権威ある定義集。TQM を目指す経営者、及び経営幹部必携の書。折に触れて絶えず参照し経営品質の向上に励みたい。

－ 2012年10月21日 林 明夫記－